



徳島縣知事龜山理平太敏勳件
右謹テ裁可ヲ仰ク

大正四年三月五日

内閣總理大臣伯爵大隈重信



内

閣

三月五日施行

賞勳局告示第三二號

大正四年三月五日



内閣書記官

内閣總理大臣



賞勳局總裁



德島縣知事正五位勲四等龜山理平太
儀量ニ臺灣總督府警視總長在勤中
大正二年六月ヨリ同年九月マテ及同三年
五月ヨリ同年八月マテノ間臺灣ニ於ケル蕃
社討伐ノ事務ニ從事シ勵精盡瘁克ク
其計畫ヲ遂行シ蕃族ヲ平定スルニ至リタ
ル功績顯著ノ者ニ候處目下病氣ニ罹リ危
篤ニ陥リタル趣ニ付此際特別ヲ以テ勲三
等ニ敘シ旭日中綬章ヲ授ケラレ度此
段允裁ヲ仰ク

内

閣

三月二日

めくれば

明治三十八年八月

元臺灣總督府警視總長

徳島縣知事正五位勲四等 亀山理平太

勲三等旭日中綬章

右者別紙功績調書、通臺灣總督府警視總
長在勤中大正二年六月より同年九月迄及大正
三年五月より同年八月迄、間臺灣に於ける蕃社
討伐、事務に従事し、勸精盡瘁、克く其計畫
ヲ遂行し、蕃族ヲ平定し、禍源ヲ根絶し、蕃地間
發せしむる有効なる功績洵に顯著なり

内務省

此ノアリ、依テ特ニ頭書、通賞賜ヒ、度比候及

票申候也

大正四年三月五日

内務大臣子爵大浦武



内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

功績調書

徳島縣知事正五位勲四等 龜山理平太

一キナジ方面蕃社討伐

自大正二年六月二十五日

至大正二年九月九日

二太魯閣蕃社討伐

自大正三年五月三十日

至大正三年八月二十三日

大正二年五月キナジ方面蕃社討伐ノ準備
ニ着手スルヤ民政長官ヲ補佐シ専ラ計
畫ノ衡ニ當リ當局吏員ノ監督ハ勿論

臺灣總督府

關係官衙ノ交渉ヲ累ネ速ニ決定ヲ見ル
ニ至レリ而シテ討伐ノ開始前日ヨリ討伐
隊副指揮官トシテ新竹廳下李嶼山
ニ出張シ討伐警察隊司令部ヲ設置シ常
ニ同地ニ在リテ軍司令官ヲ補佐シ桃園新
竹兩討伐隊長以下ヲ督勵シテキナジマ
リコワンノ兩蕃ヲ平定シ其ノ所有銃器全
部ノ押収ヲ了セリ此ノ方面ノ大勢漸ク
定マルヲ睹更ニ追加行動ヲ籌畫シ宜
蘭廳下溪頭蕃新竹廳下シヤカロ
蕃南投廳下シカヤウ、サラマオ蕃ヲ
廓清シ尚ホ新竹廳下汶水蕃桃園
廳下ガオガン蕃ノ銃器押収ヲ為シタ

リ即々本行動開始ヨリ追加行動終結ニ
至ルマテ七十餘日間終始一日ノ如ク事務
ニ従事シ計画ノ遂行ニ努メ一面警察本
署長トシテ平地警察官ノ討伐隊ニ對スル
應援並人夫ノ徵募物資ノ輸送等後
方事務ニ關シテモ民政長官ヲ補佐シテ之
ヲ處理シ毫モ遺憾ナカラシメ由テ以テ豫
期以上ノ功ヲ収メタリ

大正三年五月太魯閣蕃社討伐ヲ計畫ス
ルヤ蕃務本署長事務取扱トシテ民政
長官ヲ補佐シテ計畫ノ進行ニ當リ當局
吏員ノ監督ハ勿論關係官衙ノ交渉
ニ至ルマテ此ノ遺漏ナカラシメ行動開始ト

臺灣總督府

同時ニ討伐警察隊副指揮官トシテ專屬
監視以下ヲ率ヘ五月三十日ヨリ北埔ニ總司令
部ヲ置キタツギリ、バトラン西方面ノ討伐隊
ヲ編成シテ即日行動ヲ開始セシメ南東兩
隊長以下ヲ指揮シ先ツバトラン蕃ヲ降服
セシメ同方面ノ討伐隊ヲ漸次タツギリ方面
ニ移シ内外太魯閣及タウサイ蕃ノ處置
ニ從ハシメ更ニ此ノ方面ニ在リシ隊員ヲ宜
蘭廳下南灣蕃方面ニ轉進シテ銃器押
収ニ着手セシメ躬ラ同方面ニ抵リテ之ヲ指
揮シ其目的ヲ達スルヤ再ヒタツギリ方面
ニ歸リ銃器押収並防備ノ完成ヲ督責
シ豫定ノ計畫ヲ遂行シタリ而モ一面警

察本署長トシテ後方勤務ニ関シ民政長
官ヲ補佐シテ人夫徵募物資輸送ノ事
務ヲ處理シ此ノ遺憾ナカラシメタリ加之此
討伐ノ餘威ヲ利用シ花蓮港臺東南
投阿維等右腰下高山蕃ノ所有銃器押
収ヲ計畫シ豫定ノ目的ヲ達セリ
以上ニ因リ討伐共該官ノ籌畫軍施宜シキ
ニ適ヒタルニ由リ從來慄悍無比ト稱セラ
レタルニ大蕃族ヲ平定シテ禍源ヲ根絶シ
尚ホ之カ爲ニ年来ノ理蕃施設ヲ一
層有効ニシタルモノニシテ其ノ功績特ニ顯
著ナリトス

裏面白紙

大正四年三月五

內閣
秘書
印

子

[illegible]

大正四年三月五日

内閣書記官



内閣總理大臣



内閣書記官長



賞勳局總裁上申 徳島縣知事正五位勲四等
尾山理平太儀襄 臺灣總督府警視總長
在勤中大正二年六月より同年九月まで及同三
年五月より同年八月までノ間 臺灣ニ於ケル蕃
社討伐ノ事務ニ從事シ 勵精盡瘁克々其ノ
計畫ヲ遂行シ蕃族ヲ平定スルニ至リタル功績

内

閣

顯著ノ者ニ候處目下病氣ニ罹リ危篤ニ陥リ
タル趣ニ付此際特別ヲ以テ勲三等ニ叙シ旭日
中綬章ヲ授ケラレ度此段允裁ヲ仰々

三月五日 裁可